

第3回和光市地球温暖化対策委員会 会議録

日時 平成25年11月29日(金)

午後2時00分～3時30分

場所 和光市役所 603会議室

出席委員：松田委員長、芳野副委員長、井口委員、中川委員、藤井委員、小林委員、横山委員

事務局：尾形市民環境部次長兼環境課長、丸山環境課長補佐、小賀坂統括主査、

傍聴者：なし

1. 概要

次第のとおり。

2. 議題

(1)二酸化炭素排出状況について

事務局：実行計画の進行管理を行う上で計画策定後の二酸化炭素の排出状況を把握する必要があることから、「埼玉県市町村温室効果ガス排出量推計報告書2011年度」に基づき、和光市の二酸化炭素排出状況の報告をします。(中略)

1990年以降の二酸化炭素排出量が、本報告書と実行計画書の数値と若干乖離している点はあるものの、算定は、環境省「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)策定マニュアル」に記載されている算定方法を参考に行っており、基本的には、実行計画書の算定方法と同じであり、より精度の高い活動量データ等が得られた場合には、このデータを用いて算定していること、また毎年データの公表が行われる予定であることから、今後の排出状況は埼玉県の報告書の数値で把握していく方針とします。

【委員の意見及び事務局の説明】

中川委員：基準年2009年然り、1990年も数値に違いが見受けられるが、今後は、活用数値データとしての1本化をお願いします。

井口委員：基準年2009年は、排出量が一番減少している年で、この数値を25%

削減する目標は、かなり厳しいものと感じる。

(2)温暖化対策の具体的な取組の達成状況について

(3)計画の達成状況の評価について

事務局：平成24年度に取り組んだ温暖化対策の具体的な取組内容を実行計画の6つの施策ごとに説明します。(中略)

併せて行政として、その内容に対する取組状況の達成状況の評価をします。(中略)

本日委員の皆様から評価に対するご意見を頂戴し、その結果を取りまとめて市長へ報告してまいります。

【委員の意見及び事務局の説明】

中川委員：かなり過小評価しているように感じる。○から◎にしてもいい内容のものもあるように思えるが、○と◎の評価の違いは何か。

事務局：啓発等の項目は、実数より抽象的な部分が多々あり、効果の大きさや影響力等を含めた考えに基づいている。

中川委員：市内循環バスの運行ルート改正を距離数増で評価しては如何か
エコライフDAYと省エネチェックブックは内容が重複しているのではないか。

松田委員：公園のトータル面積の増減で評価しては如何か

中川委員：和光市は、メガソーラータウンとして、住宅用太陽光発電補助金を件数で評価する以外に契約kw数を面積換算したものを指標としては如何か

事務局：現在東京電力から市内余剰電力の件数や出力数を行政が依頼した場合のみ情報提供を頂いているので、そのデータも活用願いたい。

松田委員：和光市内のハイブリッドカーの保有台数を把握しては如何か

藤井委員：今年度省エネコンテストに㈱東京ガスも参加させていただいたが、環境教育の場の機会を増やすべく環境課と教育部局との連携を強化願いたい。

芳野委員：自転車市役所として一步踏み込んだ仕掛けを考えてもらいたい。

(3)その他

(株)ホンダソルテックの撤退により今井委員から委員辞退の申出があった。

事務局から、次回委員会は平成26年4月頃開催予定である旨説明があった。

埼玉県地球温暖化防止活動推進員の募集についての説明を行った。

屋根貸し事業についてのノウハウ提供について(委員意見)

- ・既存の集合住宅等へセミナー等の開催
- ・北インター地区の企業誘致に対し、太陽光設置の義務化を提言